

# 『Mind Charging』

第 157 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 19 日

## 東野圭吾の名言



あることを証明しようとする時、可能だということを  
証明するのより、不可能だということを証明する方が  
はるかに困難なのだそうだ。

この言葉を知った時に、逆だと思っていただけに驚きました。しかし、確かに『〇〇だとしたら可能だけだね・・・』という、あくまでも“条件的に合わないから不可能”という話はよくされますが、“条件さえ合えば可能”なのかと思うことの方が今までも多かったかもしれません。

私たちは日々の生活の中でやるべきことがあり、そのほとんどが高いモチベーションで継続的に行うことが簡単ではないことばかりです。ですから、時々『逃げたい』という衝動を抑えきれずに不可能だとギブアップした“フリ”をしたくなることがあります。また、そういったことだけではなく、新たに誰も挑戦したことがないようなことや、様々な物で溢れる現代において全く新しい物を開発しようと考えた時などにも、『できない理由』を探すのではなく、可能にする方法を考えられる自分でありたいものですね。『不可能(だと思っていたこと)を可能にする正智深谷！』と呼ばれるくらいチャレンジ精神にあふれた学校をみなさんの手で創り上げていきましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

東野 圭吾(ひがしの けいご、1958年2月4日-)は、日本の小説家。大阪府大阪市生野区生まれ(本籍は東区玉造・現中央区)。本名同じ。1958年、大阪市生野区に生まれる。当時の街が1999年に刊行された『白夜行』や『浪花少年探偵団』シリーズの舞台となっているなど、作品には自身の体験が幅広く取り入れられている。また、東野という名字は、最初は「とうの」と読んでいたが、圭吾の父親が「ひがしの」と読み方を変えたいらしい。以来その地で育ち、大阪市立小路小学校、大阪市立東生野中学校に進学。この頃の体験などを綴った自身のエッセイ『あの頃僕はアホでした』などによると、成績は「オール3」であり、また読書少年でもなかった。(Wikipedia 参照)